



えち ぜん

越前海岸の水仙畑

かみ みさき

上岬の文化的景観

No.18-02

所在地：福井県越前町

選定年月日：令和3年3月26日

面積：603.4 ha

選定基準：一(一)

(1) 概要

福井県嶺北地方の越前海岸では、丹生^(にゅう)山地の西側斜面が日本海に向かって急崖を形成しています。暖流により冬は比較的暖かく、強い海風が直接あたって雪が積もりにくく、水はけが良いため、古くから水仙が自生しています。一方、平地が少なく、冬は海が荒れ、住むには厳しい環境です。そのため、集落では、幾つもの生業を合わせながら生活が営まれてきました。

冬の副業として自生する水仙を採取し、売ってもいたようですが、近代には正月花として斜面での栽培が始まり、戦後は棚田等に栽培地が広げられ、水仙を主たる産物の一つに発展させました。越前海岸の水仙畑は、このような中で形成された文化的景観です。

この北部、越前町上岬地区では、越前岬の高い海食崖上の段丘及びこれに続く緩斜面の広大な棚田跡に広がる水仙畑を特徴としています。また、このような地形における山上、谷間、入江の集落の歴史と文化を表す景観を継承しています。

越前海岸における人々の暮らしを理解する上で欠くことのできない景観として重要です。



越前岬中央部、海食崖上の段丘に広がる水仙畑



小丘を風除けとする梨子ヶ平集落と周辺の水仙畑

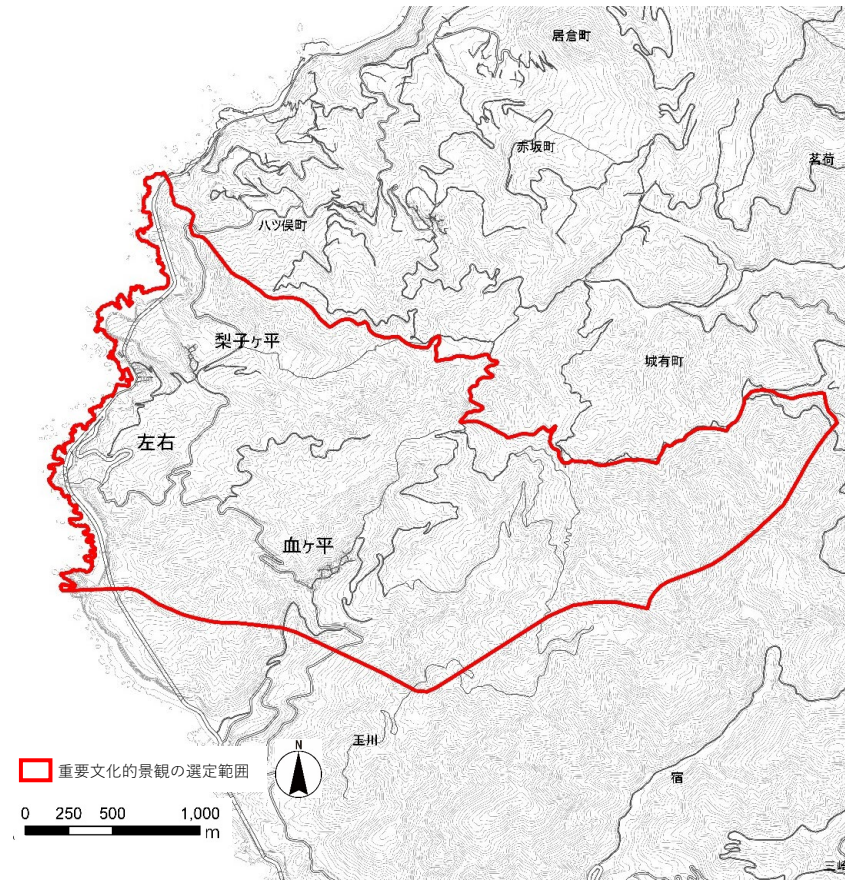


背後に水仙畑が広がる左右集落と
現在もイタブネを使ったわかめ漁が行われる左右漁港



石積みを基礎に住宅や畑地が作られている血ヶ平集落

（２）選定範囲



- 重要な構成要素：16件

（３）選定による効果

選定区域は町内でも漁業と観光を中心に発展してきた地域の一部で、冬には水仙が開花する県を代表する景観地です。山間部という立地のため、眺望スポットまでの誘導が課題の一つになっていましたが、文化的景観の制度を活用して地域住民とワークショップを実施して案内サインを設置し、誘導とともに景観への理解に役立てています。

また民間団体による水仙栽培を観光資源として活用した体験型観光ツアー、県と町の支援を受けた住民団体と企業の連携による地域活性化イベントや耕作放棄地の再生、水仙栽培の担い手創出事業など、新しい試みが行われています。



水仙栽培をテーマにした体験型観光ツアー
（（一社）越前町観光連盟Facebookより）



住民団体「上岬地区を良くする会」と
（株）Ex SATOYAMAの連携事業のひとつ
梨子ヶ平集落を会場にした写真展

（４）保存活用計画などの基礎情報

- 越前海岸の水仙畑 文化的景観保存調査報告書（平成31年3月、福井県 福井市 越前町 南越前町）
- 越前海岸の水仙畑 上岬の文化的景観保存活用計画（令和2年7月、越前町）
- ホームページ

<https://www.town.echizen.fukui.jp/kurashi/08/02/p006724.html>

(5) 活用事例

事例18-01～03 ①

人と人、人と景観をつなぐローカルフォトプロジェクト

●行政による取り組み

地域に眠っている魅力や、地域の抱える課題を見つめ直し、カメラと写真の力を借りて課題を価値として生まれ変わらせる「ローカルフォト」の取り組みが全国各地で行われています。

福井市と越前町、南越前町では「ローカルフォトスクール」と題した座学と撮影取材実習を開催し、ローカルフォトの概念や方法、他地域での事例などを学びながら、地域の魅力・課題を発信する人材の育成を行っています。取材・発信を通して、越前海岸の水仙畑に関する認知度向上、水仙農家をはじめとした地元住民のシビックプライドの醸成、地域課題の共有と解決を目指します。

またローカルフォトスクールを受講したメンバーがローカルフォトグループ「越前水仙カメラ」を結成し、四季折々の生活・生業の撮影・取材、SNSなどによる発信を行っているほか、フォトブックやポスターを作成し、新たな視点から水仙畑の魅力が伝えられるよう活動しています。さらにメンバーが生業継続を自分ごととして認識するようになり、営農支援などにも活動の幅が広がっています。

団体等情報： 福井市ホームページ

<https://www.city.fukui.lg.jp/kankou/bunka/bunkazai/lps.html>

越前水仙カメラ <https://echicame.site/>



水仙畑でのローカルフォトスクール



水仙農家さんはローカルヒーロー！



地質や植物、建造物などを探求する
ローカルラーニングツアーも開催



越前水仙カメラポスター

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 広域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり・
人づくり

（５）活用事例

事例18-01～03 ②

3市町・水仙農家などによる文化的景観保存活用のための協議会

●行政と住民等の協働による取り組み

重要文化的景観の一体的な保存活用に取り組む福井市、越前町、南越前町では、選定後に、3市町と地域団体、農家団体、観光関係団体による「越前海岸の水仙畑の文化的景観保存活用連携協議会」を結成しました。福井県のオブザーバー参加を得て、例年8月に総会を開き、事業に関する議論や水仙農家の担い手不足や獣害などの共通する課題についての情報交換を行い、それに基づいて9月～3月にかけて連携事業を推進しています。

具体的にはローカルフォトプロジェクト事業（事例18-01～03①参照）や、広域ガイドマップ作成・映像制作による情報発信、案内サインの統一などを通して、認知度向上を図り、越前海岸の水仙畑のブランドイメージを醸成することに努めています。

また水仙農家や有識者を講師にして、草刈り・水仙収穫・石積みなど、水仙栽培に必要な作業を学ぶ「文化的景観守り人育成事業」などを実施し、担い手不足・関係人口の増加を図っています。

今後も、地域振興や営農発展について総合的に議論できる場となるよう組織を発展させていきたいと考えています。

団体等情報：越前水仙カメラ <https://echicame.site/>

地域：越前公民館、上岬地区を良くする会、糠区
 観光：越前イメージアップ推進協議会、越前町観光連盟、南越前町河野観光協会
 農家：こしの水仙部会、越前町すいせん部会、河野水仙出荷組合
 行政：福井市、越前町、南越前町
 オブザーバー：福井県
 （事務局は行政の担当部署が2年毎に持ち回り）

協議会構成団体



水仙収穫体験（文化的景観の守り人育成事業）



水仙畑の下の草刈り体験（文化的景観の守り人育成事業）



越前海岸の水仙畑ガイドマップ作成

水仙収穫体験参加者（地域外在住）の声

写真や映像でよく見る景色ですが、実際に来てみると迫力が違いました。足が竦むような場所を畑にして作業している農家さんたちはすごい。この景観を残してほしいです。

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す開発

⑤ 財源と運用
確保

⑥ 人づくり・
人育て

(5) 活用事例

事例18-02 ③

棚田跡を活かした水仙畑のオーナー制度

●住民や団体等による取り組み

選定区域の集落の一つである梨子ヶ平集落の東側に広がる「千枚田水仙園」は、江戸時代に開墾が始まった棚田を転用した水仙畑（重要な構成要素）です。

この「千枚田水仙園」を中心に人口約20人の小さな集落で、地域資源を活用して景観を守ることを目的に棚田オーナー制度は行われています。制度のスタートには、農林水産省の中山間地域等直接支払制度を活用しています。

棚田オーナー制度では、会費を納めれば誰でも1年契約で水仙畑のオーナーになることができ、草刈・収穫など農家の仕事を体験できます。契約した水仙畑の日常の管理や、収穫に来ることができないオーナーには住民が変わって作業を行い、水仙を送付しています。

以前は統一作業日を設けてオーナー同士や住民との交流が行われていましたが、現在は作業に来られるオーナーの減少により実施が難しくなっています。このような課題については「越前海岸の水仙畑の文化的景観保存活用連携協議会」（事例18-01~03②参照）でも話し合わせ、水仙畑に関わりたい人々が交流できるような事業が、住民の協力のもとに実施されています。



現在は水仙畑となる、近世に開墾された千枚田



オーナーの名札が並ぶ千枚田の一角

棚田オーナー制度代表者の声

最初、花で棚田オーナー制度を実施するのは難しいと言われました。実際に募集するとたくさんの方の申し込んでくれ、梨子ヶ平までやってきてくれました。とても嬉しかったです。栽培環境は年々厳しくなっていますが、興味をもってくださる方がいる限り続けます。

団体等情報： であーらにおいでよ！福井県越前町梨子ヶ平
<https://echizen-suisen.jp/>

① 地域内での
魅力の共有

② 活性化の
目標の共有

③ 地域外への
広報

④ 魅力を引き
出す

⑤ 財源の
確保と運用

⑥ 人づくり